

■甲陽園の変貌

大正7(1918)年、資産家の本庄京三郎氏が経営する会社によって甲陽園一帯は、温泉、劇場、撮影所などを有する一大行楽地として開発されました。同時に山を切り崩し、大規模な宅地造成も行って郊外住宅地の開発を進めました。大正13(1924)年には阪急電車が開通し、駅名に「甲陽園」と名づけられたことから一帯も同じ名で呼ばれるようになったそうです。

昭和2(1927)年に撮影所は京都へ移転され、近くに宝塚大劇場や阪神パークなど大レジャー施設が開園し、また昭和13(1938)年の阪神大水害の影響もあり、次第に行楽地から住宅地へと変わっていきました。平成になってからは高級料亭や豪邸が大規模マンションへと姿を変えていきました。現在も、営業を続ける料亭は1軒のみです。

*大型マンションに姿を変えた主な施設：つる家、はり半、甲陽館、カトリック大阪教区・司祭の家、甲陽遊園（甲陽倶楽部・甲陽劇場）子孫ヶ池、若江音次郎旧宅（赤井邸）
*若江音次郎邸：本庄氏と並び甲陽園の開発者。旧若江邸は、宮本輝「にぎやかな天地」の主人公、聖司の実家という設定。

■旧カフェパウリスタの現オーナーにお聞きしました

甲陽園のまちなみの変貌について、旧カフェパウリスタの現在のオーナーさんを訪ねました。

カフェの建物は、第二次世界大戦後、撮影所跡に開業した会社の社宅として活用されるようになりました。当時の甲陽園は、料亭の建物が小高い山の木々に囲まれ見え隠れするぐらいで住宅はまばらでしたが、この建物に似た洋風建物が他にもあったと記憶に残っているとのことでした。甲陽幼稚園までは一面原っぱで、買い物などするために夙川駅まで出かけていたそうです。阪神・淡路大震災で建物がかなり傷みましたが、修理・補修しながら現在も住まわれています。住むにも維持にもご苦労があるようですが、そのおかげで当時の面影のまま現存する建物となっています。













地図：原図は花沢繁則氏（当時の旅館経営者）作成（昭和55-56年頃）、一部加工



■ 西宮まちなみ発見MAP

【西宮まちなみ発見 MAP】について

西宮まちなみ発見クラブでは、平成25年の活動として、西宮の歴史・自然・暮らしを感じる「景観みどころコース」を作成しました。今回はさらにその中から5つのコースを選んで、携行用の「西宮まちなみ発見MAP」として完成させました。このMAPを片手に、西宮の魅力に触れてみてください！

ひとやすみスポット	 トイレがあります	 ベンチがあります	
 公園	 コンビニエンスストア	 学校園	 神社
 バス停	 ガソリンスタンド	 郵便局	 寺社

【西宮まちなみ発見クラブ】とは

西宮まちなみ発見クラブは、公募による市民で構成されるクラブで、平成17(2005)年より活動しています。景観に関する情報の共有や意見交換を通じて西宮のまちなみについて考え、美しいまちなみづくりを目指す活動を行っています。



平成27(2015)年3月2日発行
企画・制作：西宮まちなみ発見クラブ
協力：関西学院大学 社会連携プロジェクト「西宮まちづくり」チーム
西宮まちなみ発見クラブ事務局;西宮市役所景観まちづくり課(0798-35-3526)

■地名「西宮」の起源となった廣田神社

廣田神社が創建された当時は、本社、南宮、えびす社の三社一体のお社で、古文書によると、平安後期から室町時代にかけて、この三社への参詣を西宮参詣と称していたとあります。中世の辞書である「伊呂波字類抄（いろはじるいしょう）」等に「廣田社、世俗西宮と号す」とあり、西宮は廣田神社の別称として、中世から広く一般に認識されていたようです。このことが「西宮」の地名の起源と言われています。

*参考：「廣田・西宮官史の研究、史料篇」吉井良隆著、「廣田神社の略記」
*写真上：一の鳥居
*写真中：広田参道筋（平成26年、名称募集で決定）
*写真下：廣田神社境内に設置されている古代の地図

■万葉集に詠まれた名次山（なつぎやま）

古代、名次山（なすきやま）の南麓まで、海が深く入り込んでいたといわれています。歌にある「角の松原」とは、万葉集が詠まれた当時、南に開けた津門の入江が角（つの）のように突き出た地形だったのかもしれませんが。（当時、松原は白砂青松）
名次山と角の松原の勝景は、山陽道（ほぼ現在の国道171号線に沿う）を行き交う旅人だけでなく武庫の入江を漕ぐ船人の目も楽しませたことでしょう。

*参考：「万葉の歌-人と風土-6兵庫」中西進企画・神野富一著

■ため池と水争い

江戸時代、新田開発により仁川からの取水権をめぐる水争いが起きました。当時の尼崎藩主の青山幸利が、大市庄の五ヶ村にため池を3つ掘る代償として仁川から下流に流す水量を増やすように説得して回りました。こうしてできたのが、目神山大池（甲陽大池）、岩ヶ谷大池（新池）です。

廣田神社境内の北側には、江戸時代に仁川からの水路工事を成功させた中村治部紋左衛門の功績を称えた石碑「兜籠底績碑（とろくていせきひ）」があります。

*写真上：春の新池　*写真下：兜籠底績碑

大正時代に開発された“ニュータウン” 甲陽園と歴史ある廣田神社をつなぐコース

大正7(1918)年から開発が始まり、戦争をはさんで住宅地に生まれ変わった甲陽園。一方、1800年以上前に創建されたとの神話がある兵庫県第一の古大社である廣田神社。

このコースをめぐりながら、変わりゆくまちなみと変わらないまちなみに思いを巡らせてみませんか。

■甲陽園地下壕

かつての地下壕の場所を示した看板が甲陽園日之出町の桜公園にあります。

地下壕は昭和20(1945)年、空襲から逃れるために軍用施設である川西航空機の地下工場として建設が始まりましたが、完成を待たずに終戦を迎えました。昭和62(1987)年に発見されましたが、花崗岩の風化がすすみ危険なので、平成26(2014)年、最後の1基(4号壕)が埋め戻されました。山王東公園には、甲陽園地下壕跡地の石碑が設置されています。

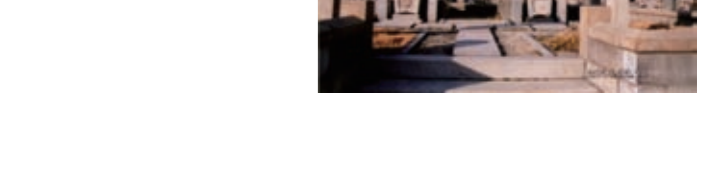
*写真：地下壕壕配置図（日之出町桜公園）



■満池谷墓地の供養塔

満池谷墓地は、昭和3~4(1928~1929)年、六湛寺に市役所を建設する際、6万余基の墓を移設する代替地として建設されました。一般のお墓以外に、新日本汽船株式会社の船員たちを追悼する殉難碑の他、戦死された人々の墓碑、西宮市の戦災、交通犠牲者の供養塔などがあります。

新日本汽船と合併する前の山下汽船は、第二次世界大戦中、保有する96隻のうち80隻と1,723名の船員を失いました。



*表紙写真：昭和20年代頃のカフェパウリスタ（現在のオーナーさんより提供）一部加工
*MAP作成にあたり以下を参考にしました。
「甲陽園今昔…西宮七園誕生」講演会資料（講師：山下忠男/西宮文化協会会長）平成26(2014)年10月3日
「語り部ノートにしのみや」
「神戸新聞NEXT」阪神版　平成25(2013)年12月25日
「西宮市政ニュース」平成26(2014)年5月25日号、9月25日号
「宮っ子」平成27(2015)年1・2月号
「宮っ子」"MyTown甲陽だより" 昭和56(1981)年~現在、他

1 甲陽園駅／甲陽園本庄町

甲陽園の住宅地は大正7(1918)年から開発され、阪急甲陽線は大正13(1924)年に開通しました。駅舎は、昔の面影が残る平屋建ての駅です。平成20(2008)年に発生した構内での脱線事故をきっかけに、ホームの改修工事が行われました。改札口正面にあったタイル張のレトロな水飲み場が撤去されたのが惜しまれます。



2 旧カフェパウリスタ／甲陽園本庄町

甲陽園駅周辺には、東亜キネマ甲陽撮影所や甲陽遊園地が全盛期だった名残が見られます。このカフェ跡も当時の面影が残されている建物のひとつです。大正モダニズムの拠点だった浅草のカフェパウリスタの関西店で、当時は、地下1階にビリヤード場、1階にカフェ、その一角にタバコ屋、2階が土地会社の事務所として使われていました。現在は住居として使われています。



3 大池から甲山を望む／甲陽園本庄町

甲陽園の開発の際に、大池の浅地部分が埋め立てられグラウンドや歌舞練場、動物園などのある甲陽遊園地が作られました。その後、遊園地が閉鎖され昭和43(1968)年にさらにそのうちの半分が埋め立てられ甲陽園小学校が建てられました。手前には大池、その向こうに景観重点地区に指定された甲陽園目神山町の住宅、遠景に甲山が見えます。三段構えの構図に、枠をはめれば絵画のようです。



4 水道路／神原

満池谷墓地の西側にある踏切に「神戸水道路」という看板がさりげなくとりつけられています。これは、神戸市北区にある千苺貯水池から上ヶ原浄水場を経て神戸市の奥平野浄水場まで運んでいる送水管(総延長約19km)が、この地下に通っていることを示しています。平成18(2006)年、送水管が壊れ、新甲陽の六叉路が浸水したことで、その存在を市民が改めて知るところとなりました。



5 満池谷累層 (まんちだにるいそう)／神原

西宮市北西部は階段状の段丘が標高70mまで広がっており、段丘の下の方に、この満池谷累層があります。ここに寒地にしか生えない植物の遺体(と言うのですね、植物でも)が発見されたことから、氷河期と亜熱帯の気候が繰り返されていたことがわかりました。立入禁止の岩肌を遠目に見ながら、氷河期を想像してみたいかたがでしょうか。



6 名次神社・名次山／名次町

廣田神社の摂社(西方を守る神)で、祭神は名次大神(水分神=雨乞いに霊験有り)です。万葉集に高市連黒人が詠んだ歌があります。(表面に紹介)名次山は、「摂津名所図会」に名次岳として解説があり、古くから景勝地だったようです。平成23(2011)年から行われていた文化庁の調査で、市内の名勝地7ヶ所のうちの1つに選ばれました。



10 みたらし通り／中屋町～六軒町

みたらし通りは、御手洗(みたらし)川沿いに国道171号～新甲陽町を結ぶバス道で、両側にはソメイヨシノの古木が続く歩行者専用道路が設けられています。桜の名所としては夙川にひけをとりません。このMAPで紹介するコースのゴールは廣田神社ですが、西宮のシンボル、甲山を望みながら30分ほど歩くとスタートの甲陽園駅に戻ることができます。



9 廣田神社／大社町

廣田神社は日本書紀にも登場する由緒ある神社です。隣接する広田山公園には2万本ものコバノミツバツツジ群落があり、兵庫県の指定天然記念物となっています。現在、生物多様性に配慮した公園づくりがすすめられています。また、「廣田神社周辺地区都市再生整備計画」による道路整備が平成26(2014)年に完了し、旧参道が生まれ変わりました。国道171号～みたらし通りの区間が名称募集により「廣田参道筋」と名づけられました。



8 西宮震災記念碑公園／奥畑

阪神・淡路大震災の教訓を風化させないためにニテコ池の東側につくられた公園です。敷地内には震災犠牲者追悼の碑と戦没者慰霊塔が建てられています。また、震災被害や復興の様子を知らせる石版も設置されています。毎年1月17日前後には、近隣で被害を受けた大社中学校と上ヶ原中学校の生徒が、合同で清掃作業を行う姿が見られます。



7 ニテコ池貯水池／満池谷町

西宮(戎)神社の大練塀に真土を運び出した跡地に綿畠の灌漑用貯水池として整備されました。野坂昭如氏の小説「火垂るの墓」で清太と節子が住み着いた洞穴は、池の南東の土手あたりではないかと言われています。(写真)池の真ん中にある道路から北を仰げば甲山が一望できます。松下手幸之助氏が、この景色と東側に見える森を気に入り移り住みました。今でも邸宅の一部が残されています。

